

# 博士学位論文審査要旨

2016年12月28日

論文題目： 集団間葛藤におけるネガティブなメタステレオタイプの働き

学位申請者： 小林 智之

審査委員：

主査： 心理学研究科 教授 神山 貴弥

副査： 心理学研究科 教授 中谷内 一也

副査： 心理学研究科 准教授 及川 昌典

要 旨：

本論文では、集団間葛藤の問題を理解する上で重要視されてきたステレオタイプに加えて、メタステレオタイプが外集団の成員に対する反応に影響を及ぼすことを示し、また、その影響を低減させる方法について有益な示唆を提供する一連の実証研究の成果が報告されている。

人は相手の特徴を精査しようとするよりも、ステレオタイプを利用した簡便な処理を行う傾向がある。そのような簡便な処理は、正しい判断を導くという保証はなく、偏見や差別を導くことも多く、平等主義的な規範にも沿わないため、特に否定的なステレオタイプの表明や利用は問題視されてきた。しかし、対人相互作用の質を悪化させる要因は、ステレオタイプだけではない。研究1では、否定的なメタステレオタイプも、相手から偏見の目を向けられているという懸念や不安を増幅させ、外集団成員に対して否定的な反応を生むことが示された。外集団から抱かれているイメージに注意を払うことは、現代社会の規範に沿うものであるため、メタステレオタイプの表明や利用が問題になることは、これまでの研究では看過されてきた。

メタステレオタイプが外集団成員に対する反応に及ぼす影響については、効果的な対処法が提案されていない。研究2、研究3、研究4では、従来の研究においてステレオタイプの低減に効果的であるとされる、集団間接触の機会や、共感的配慮、平等主義的な信念は、メタステレオタイプの低減には効果がないばかりか、むしろ逆効果であることが示された。

メタステレオタイプから生じる集団間葛藤に対応するためには、内集団と外集団が互いに依存し合う関係にあるという観点、すなわち、集団相互依存観が重要となる。実際に、研究5では、内集団と外集団が互いに依存し合う関係にあるという観点に立つ者においては、否定的なメタステレオタイプは、内集団の汚名を返上し、関係を修復しようとする反応を促すことが示された。

本研究の成果は、集団間の葛藤に関する学術的な理解に貢献するのみならず、現実的な社会問題への対策にも有益な示唆を提供するものである。審査委員一同は、本論文が当該分野の研究の進展に貢献する十分な成果をあげたものと判断し、本論文が博士（心理学）（同志社大学）の学位を授与するにふさわしいものであることを認める。

## 総合試験結果の要旨

2016年12月28日

論文題目： 集団間葛藤におけるネガティブなメタステレオタイプの働き

学位申請者： 小林 智之

審査委員：

主 査： 心理学研究科 教授 神山 貴弥

副 査： 心理学研究科 教授 中谷内 一也

副 査： 心理学研究科 准教授 及川 昌典

要 旨：

上記審査員3名は、2016年12月28日午後12時20分から約50分に及ぶ博士論文公聴会の後、約2時間にわたり、学位申請者に面接試問を実施した。提出された論文に対して、適切な応答と説明がなされ、本論文の学術的な価値が確認された。また、申請者の小林氏は、心理学全般にわたる専門的な知識と研究能力を有することが確認された。引き続き実施した語学試験（英語）についても、十分な学力を有することが確認された。

よって、総合試験の結果は合格であると認める。

# 博士學位論文要旨

論文題目： 集団間葛藤におけるネガティブなメタステレオタイプの働き  
氏 名： 小林 智之

## 要 旨：

外集団の成員に対して排外的な反応が示されることは、これまでに国籍、人種、ジェンダーといった幅広い領域で問題視されてきた。本研究では、外集団から内集団に対して抱かれているイメージに関する認知（メタステレオタイプ）の働きに焦点を当て、そのような集団間葛藤の問題における新たなモデルや低減方法について議論した。

これまでの社会的認知研究においては、集団間葛藤の問題は、外集団に対して抱いているイメージ（ステレオタイプ）の働きに主眼を置いて検討されてきた。そのため、外集団の成員に対する個人の反応には、ステレオタイプと同等かそれ以上に、メタステレオタイプが重要な影響を及ぼしているという指摘が見られるにもかかわらず（e.g., Kim & Oe, 2009; Vorauer, Main, & O'Connell, 1998）、集団間葛藤を扱う既存のモデルや理論においては、メタステレオタイプの働きが考慮されてこなかった（問題点1）。したがって、集団間葛藤に対する低減方法についても、メタステレオタイプの働きが考慮されないまま効果が検討されており（問題点2）、集団間葛藤の問題を引き起こすメタステレオタイプの働きへの対策がわかっていなかった（問題点3）。

これらの3つの問題に対して、本研究では、ステレオタイプの働きに加えて、メタステレオタイプの働きを考慮した理論的な枠組みとして、関係性ステレオタイプモデルを提案した。私たちは、他者との相互作用における複雑で膨大な量の情報を処理するために、集団についての情報に基づいた判断を行っている。集団間葛藤を扱う既存のモデルや理論では、他者との相互作用における認知プロセスの構造として、集団についての情報（ステレオタイプ）から、互いに相手の性質を判断（ステレオタイプ化）し、その性質に応じて反応することが想定されてきた（Yzerbyt & Demoulin, 2010）。しかし、実際の対人相互作用に鑑みると、私たちは、相手の性質に応じた反応をすることに加えて、相互作用の流れをパターン化し、その相互作用パターンを参照した反応をすることが考えられる（Baldwin, 1992）。たとえば、外集団の成員との相互作用においては、集団間の典型的な相互作用パターンについての情報が参照されている可能性が考えられる。また、相互作用パターンは相手との関係性によって規定されるものであるため（Kenny & La Voie, 1984）、集団間の典型的な相互作用パターンは、内集団から外集団に対して抱いているイメージに関する認知（ステレオタイプ）と、外集団から内集団に対して抱かれているイメージに関する認知（メタステレオタイプ）という、集団間の関係性を表す社会的認知から推定されるものと考えられる。それゆえ、既存のモデルや理論において、私たちは、外集団についての情報に基づいた個々人の性質に応じて反応すると考えられてきたが、さらに、集団間の関係性についての情報に基づいた相互作用パターンに沿って反応するとも考えられるのである。本研究では、集団間の関係性を表す社会的認知が外集団の成員との相互作用に影響する仕組みについての理論的な枠組みを、関係性ステレオタイプモデルとした。

関係性ステレオタイプモデルの想定に基づき、本研究では3つの問題に関連した一連の研究を実施した。まず、関係性ステレオタイプモデルは、外集団の成員との相互作用におけるメタステレオタイプの働きを説明することができる（問題点1に対応）。外集団から内集団に対して抱かれているイメージに関するメタステレオタイプは、集団間の典型的な相互作用パターンの推定に参照されるものと考えられる。すなわち、外集団から内集団に対してポジティブ（ネガティブ）なイメージが抱かれていると認知する者は、その外集団とのポジティブ（ネガティブ）な相互作

用パターンを推定し、外集団の成員に対するポジティブ（ネガティブ）な反応を示すと考えられる。研究1においてメタステレオタイプが外集団の成員との相互作用に及ぼす影響について検証したところ、予測と整合して、外集団から内集団に対してネガティブなイメージを抱かれていると認知した者が、ポジティブなイメージを抱かれていると認知した者と比べて、外集団の成員に対する敵意やネガティブな評価を示すことが確認された。

次に、関係性ステレオタイプモデルに基づけば、ネガティブなメタステレオタイプの働きは、集団間接触、共感的配慮、平等主義の育成といった集団間葛藤に対する既存の低減方法によって対処できない可能性が考えられる（問題点2に対応）。メタステレオタイプは、外集団から内集団に対する受け身の認知であるため、曖昧さやコントロールの難しさといった感覚が伴う（Blumberg, 1972）。この曖昧さやコントロールの難しさは、既存の低減方法がネガティブなステレオタイプの働きに機能したような、個人の認知を変容もしくは抑制するように促す働きを阻害するものと考えられる。このような予測と整合して、集団間接触について検証した研究2では、外集団の成員との接触は、ステレオタイプのネガティブなバイアスを抑制するものの、内集団に対するポジティブな集団間バイアスを抑制することで、メタステレオタイプのネガティブなバイアスを促進することが確認された。また、共感的配慮について検証した研究3では、外集団の成員に対して共感的な配慮を示すことが、ネガティブなステレオタイプを抑制する一方で、ネガティブな相互作用における外集団の成員に対する視点取得を促して、ネガティブなメタステレオタイプを促進することが確認された。さらに、平等主義的な信念について検証した研究4では、平等主義的な信念の高い者が、ネガティブなメタステレオタイプを認知した場合に、外集団の成員との相互作用に対する不安を増幅することが確認された。

最後に、集団間葛藤に対する既存の低減方法がネガティブなメタステレオタイプの働きを増幅させてしまうことを受け、集団間葛藤におけるネガティブなメタステレオタイプの働きにも適切に機能する低減方法を提案しようと、関係性ステレオタイプモデルから汚名返上仮説を導出した（問題点3に対応）。関係性ステレオタイプモデルに基づけば、内外集団が互いに依存し合う関係にあるという考え（集団相互依存観）は、ネガティブなメタステレオタイプが外集団の成員に対する反応に及ぼす影響を調整する可能性が考えられる。私たちは、ネガティブなイメージを抱いてくる外集団の成員に対して、必ずしもネガティブな反応を返すとは限らず、ときにはポジティブな反応を示すことで内集団の汚名を返上しようとすることがあると考えられる。そのような汚名返上の反応が動機づけられるのは、内集団と外集団が互いに依存し合っていると認識された場合であると考えられる。研究5では、こうした予測と整合して、ネガティブなメタステレオタイプを認知した場合、集団相互依存観の低い者が外集団の成員に対するネガティブな反応を促進するのに対して、集団相互依存観の高い者が外集団の成員に対するポジティブな反応を促進することが確認された。

このように、本研究では、集団間の関係性を表す社会的認知が外集団の成員との相互作用に影響する仕組みを説明する関係性ステレオタイプモデルの想定に従い、5つの研究を実施し、集団間葛藤におけるネガティブなメタステレオタイプの働きや、その働きに対して適切に機能する低減効果について検証した。集団間葛藤では、ステレオタイプとメタステレオタイプの両方が重要な役割を果たすと考えられる。それにもかかわらず、ステレオタイプの働きにのみ焦点を当てるのでは、集団間葛藤における社会的認知の働きを一面的にしか見ていないことを意味する。本研究がもたらした示唆は、集団間葛藤の解決に向けて、メタステレオタイプの働きを考慮した、より包括的な検討を可能にするだろう。